

平成29年度 地域コーディネーター一等研修会① (受講者70名)

日 時 平成29年 7月10日 (月)
午後1時から午後4時まで
場 所 西三河総合庁舎 701会議室

○ 講 義①

「学校と地域の連携・協働の意義」

講師 愛知教育大学 教授・副学長 大村 恵 氏



「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(平成27年12月 中央教育審議会答申)より

- ① これからの時代を生き抜く力の育成の観点
- ② 地域に信頼される学校づくりの観点
- ③ 地域住民の主体的な意識への転換の観点
- ④ 地域における社会的な教育基盤の構築の観点
- ⑤ 社会全体で子供たちを守り、安心して子育てできる環境を整備する観点

以上の観点を踏まえ、今後、学校や地域が抱える様々な課題に社会総掛かりで対応するために、学校と地域は、お互いの役割を認識しつつ、共有した目標に向かって、対等な立場の下で共に活動する協働関係を築くことが重要。

この他、「郷土教育」、「村を育てる学力 村を捨てる学力」、「社会教育の再解釈」などの歴史的経緯も説明。

○ 講 義②

愛知県における「地域学校協働活動」について

愛知県教育委員会生涯学習課 家庭教育・地域連携支援グループ担当

「地域学校協働活動」とは、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。

「地域学校協働本部」とは、従来の学校支援地域本部等の地域と学校の連携体制を基盤として、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制。

平成29年度の愛知県における地域学校協働本部推進事業として、「地域未来塾」、「放課後子供教室」、「外部人材を活用した土曜日の教育支援活動」を紹介。

平成28年度地域学校協働活動事例集(平成29年4月 文部科学省)より愛知県の事例を紹介。

○ 情報交換

「自分の地域の実態と今後期待する地域の姿」

研修初日ということ踏まえ、「自分の地域の実態」、「自分の地域が今後、どのようになることを期待しているか」という視点で、自分の地域への思いを語る機会とした。



平成29年度 地域コーディネーター等研修会② (受講者58名)

日 時 平成29年 7月19日 (水)
午前10時から午後4時まで
場 所 西三河総合庁舎 701会議室

○ 講 義

「地域学校協働活動における地域コーディネーターの実際」

津島市立神守中学校地域学校協働本部 豆ボラ神守本部長
同 豆ボラ神守コーディネーター

城 和彦 氏
山口良子 氏



学校の荒れを立て直す目的で、保護者以外の地域の方々を校内に招き入れるために、平成22年に学校支援地域本部を設立した。物的・人的環境整備を中心にすすめたい学校側のニーズにこたえ、図書室の環境整備や、学校に花と緑をもたらす環境整備からスタートした。

学校側のニーズにより、月曜日の放課後と土曜日の午前中に、希望する生徒を中心に、寺子屋（月テラ・ドテラ）と称し、年間各20～25回ほどの地域未来塾（学習支援）を実施している。不登校・発達障害・非行傾向の生徒なども参加し、大学生ボランティアとの交流から学習意欲が喚起され、大きな成果が出ている。

2か月に1回、学校側のニーズの確認、情報の共有、運営上及び生徒指導上の問題点等の話し合いの場として、本部長、コーディネーターを中心に豆ボラ神守実行委員会を開催し、多角的な視点から事業を運営できるようにしている。さらに、年度始めと終わりに、学校側と連絡会を開催し、ボランティア・生徒・学校側の意見を聞き、柔軟な運営を工夫している。

○ 事例発表

「地域学校協働活動（地域未来塾）の取組」

発表者① 常滑市教育委員会学校教育課 主事 小出直輝 氏

学習習慣の定着や、基礎学力の向上を目的として平成28年度に開設した。地域の教育力を活用することを目指し、地域の中からコーディネーター及び学習支援員を募集し、地域の拠点である公民館で実施した。

参加した子供は3時間の間、静かに集中して勉強に励むことができていた。開催にあたり、社会福祉協議会・更生保護女性会・老人クラブの方々の協力により、毎回開始前に軽食の差し入れがあり、好評であった。

今後の課題として、参加者及び学習支援員の募集方法や、地域コーディネーター・学習支援員の活用方法がある。本事業は地域の教育力向上も目的としているため、もっと地域の力を活用し、地域が主体となって本事業を行えるような仕組みも検討していく。（平成29年度は市内全中学校区において地域未来塾を実施）

発表者② 田原市教育委員会学校教育課 共育コーディネーター 藤城信幸 氏

地域学校協働本部での地域未来塾の取組を説明。放課後等に無料の学習支援を行い、学習習慣の確立と基礎学力の定着、学力の向上を図っている。（3中学校区で実施）

共育コーディネーターの役割は、地域ぐるみの取組へつなげていくために、①講師の選択・確保、②生徒の募集・学校との日程調整・通知、③地域未来塾講師との連絡・調整、④中間アンケートをもとに指導方法の改善、などがある。

初回に学習のコツについて説明。また、自分たちでルールを決めて学習するように指導。



主体的な学習にしていくようそれぞれの講師が工夫をして指導している。

成果と課題について。①学習の遅れがちな子供を呼び込むための工夫。②子供自身の意欲が出るようなしくみ。③子供たちが、自分のやりたいことを見つけて夢や希望を持ち、目標を達成するために頑張る力をつけていくこと。そして、④地域学校協働本部が実施している様々な事業と連携させる体制の検討が挙げられた。



○ グループワーク

「地域学校協働活動（地域未来塾）における地域コーディネーターの役割を考える」

講師 愛知学院大学 准教授 榊原博美 氏

＜グループワークの視点＞

- ・ それぞれの事例発表から学ぶべき優れた点
- ・ 所属地域で地域未来塾を実施するにあたって予想される課題、対策案

＜グループ発表の概要＞

- ・ 行政主体で学校の支援活動に取り組んでいると動きは良くなる。行政と学校と地域でイメージを共有することが大切。コーディネーターの役割を明確にする必要がある。
- ・ 地域未来塾を行うにあたって、学習支援員（学生）などの人材確保は難しい。
（大学との連携も有効。しかし有償か無償かであれば、学生は有償に流れてしまう。）
- ・ 人材確保・定着のために、校区町内会長の推薦など、地域の人を知る方の協力が有効。
- ・ 今後は、地域学校協働本部の設置につながる取組が大切になってくるのでは。
- ・ 地域の課題を共有化するために、アンケートの実施や地域コミュニティの利用、研修会の実施などが有効と思われる。
- ・ 学校と地域の意識のずれがないように、学校や地域のニーズを捉えている活動が必要。
- ・ 地域の拠点である公民館で地域未来塾を実施できることは素晴らしいことである。
- ・ 学校教職員の理解促進は必要で、学校の多忙化解消の妨げにならないようにしたい。
- ・ 学校と地域の情報交換の場がたくさんあるとよいのでは。



＜榊原博美准教授の指導・助言＞

- ・ それぞれの地域で課題は異なるが、事例発表をいただいた市の取組から先に課題をつかむことは有効である。
- ・ 大学との連携を意識した人材確保も魅力的であるが、地域の人材を確保できることが理想である。そのために、地域に貢献したい人を発掘していく必要がある。
- ・ 地域未来塾などの学習支援については、根底にある「貧困」の問題への理解は必要。
- ・ 子供の支援に目が行くが、そこに関わることで大人の学びになり地域全体の活性化につながる。つまり、「子どもの学びと育ちを支える大人の学び」の2つの視点が必要である。
- ・ 学校への一方的な奉仕ではなくて、学校から地域に向けてできることを含めて学校をつくりかえ、地域全体をよりよくする視点が大切。
- ・ 学校を知り、地域を知る人こそ、コーディネーターにふさわしい。
- ・ コーディネーターの役割は社会教育における公民館主事の役割とも共通している。また、社会教育主事に求められる資質がコーディネーターに求められる資質と同じと思う。
- ・ 学校教職員の協力としては、個に応じた学習支援については教職員が一番知っているので、募集をかけるときの働きかけなどに協力いただけるとよいのでは。



平成29年度 地域コーディネーター等研修会③ (受講者67名)

日 時 平成29年 7月26日 (水)
午前10時から午後4時まで
場 所 愛知県生涯学習推進センター 研修室A

○ 講 義 「地域コーディネーターの使命・役割について」

北名古屋市教育委員会 学校教育課 教育指導員 水田 就教 氏
同 生涯学習課 地域学校協働本部統括コーディネーター 河口三知栄 氏

北名古屋市は、「市民協働による学び支援推進事業」として、学校運営協議会と地域学校協働本部の取組を進めている。北名古屋市学校支援地域本部は、平成24年4月に、市内3小学校に設置(同時にコミュニティ・スクール導入実践研究開始)。そして、学校支援地域本部から発展した北名古屋市地域学校協働本部を、平成28年6月に市内全小中学校(16校)に設置した。学校運営協議会は学校運営に地域住民の声を反映させるた



めの協議の場(仕組み)として、学校支援地域本部は地域住民による学校支援活動が円滑に行われる(仕掛け)として、一体的運用をしている。

統括コーディネーター、地域コーディネーターの取組は多岐にわたっているため、「地域学校協働活動ガイドライン」と「地域コーディネーターハンドブック」を作成し、活用している。また、「北名古屋市地域学校協働本部要綱」により法的整備もしている。

○ 事例発表 「地域学校協働活動の取組」

発表者① 滋賀県蒲生郡竜王町学校支援地域本部 竜王町公民館長 関川雅之 氏

竜王町内には幼2、小2、中1の計5校園があり、竜王町公民館を拠点として、公民館長(社会教育主事)を筆頭に、統括マネージャー1名(常勤)と、コーディネーター5名で活動している。コーディネーターは地域の状況に精通した人材を選出。

公民館長(社教主事): 学習支援全体の調整。

統括マネージャー: 学校等との窓口。ボランティアとの連絡調整。

コーディネーター: ボランティアの人選・発掘。

<公民館に学校支援地域本部を設置しているメリット>

- ① 支援者は学校単位ではなく町全域となり支援分野が広範囲におよび、人材確保にスケールメリットが生じる。また、様々な資格や経験を持つ人材との円滑な連携が可能となる。
- ② 統括マネージャーが全体の校園を把握しており校園の取組に差が生じにくくなる。
- ③ 公民館長がパイプ役となり、公民館事業に参加している住民や自主活動グループに所属しているメンバーにボランティアとしての参加をお願いすることができる。
- ④ 公民館で学校支援分野の講座を開催し、人材育成・確保と共に、支援分野の拡大を図る。逆に学校支援ボランティアの公民館事業、自主活動グループへの参加につながる。



発表者② 奈良県奈良市教育委員会地域教育課 地域学校連携推進員 太田淳子 氏

奈良市の地域学校協働活動は、「奈良市地域教育推進事業」として「地域で決める学校予算事業」と「放課後子ども教室推進事業」2本の大きな柱の事業を推進している。

各中学校区地域教育協議会には、総合コーディネーターが1名設置され、すべての運営の中心として活躍している。それぞれの協議会、運営委員会には複数の地域コーディネーターが、そして各運営委員会にも代表コーディネーターが1名いる。また、小学校運営委員会には、放課後子ども教室を進めるコーディネーターもいる。コーディネーターには、元PTA

役員を中心に民生児童委員などが多く、委員は学校園の管理職などである。

＜奈良市における地域連携・協働の特徴＞

- ① すべての市立幼稚園、こども園、小学校、中学校で実施する。
（21中学校区、43小学校、35園。11年間の子どもの育ちに地域人材が関わることは重要。）
- ② 中学校区ごとに地域教育協議会を設置し、取り組む事業内容や予算の使途を決めている。（中学校区ごとにめざす子ども像を議論し、そのための事業を検討して決定。）
- ③ それぞれの地域において、コーディネーターにふさわしい人材を発掘し、育成している。



（コーディネーターは学校と地域をつなぎ、人と人をつなぐ重要な役割を果たせる人材であり、かつ、自分自身が意欲的に学ぶ姿勢を持つ人材でなければならない。）

○ グループワーク 「地域学校協働活動における地域コーディネーターの役割を考える」

講師 愛知教育大学 准教授 中山弘之 氏

＜グループワークの視点＞

- ・ それぞれの事例発表から学べること、質問してみたいこと

＜グループ発表の概要＞

- ・ 竜王町の実践について

地域の拠点である公民館が学校支援地域本部であることは、地域に公民館施設がある市町村には大変参考になった。お互いの顔が見える地域ができていと感じられた。

公民館の講座で支援者となる人材を育成し、学校支援につなげていることはとても参考になった。保護者の学校支援地域本部への関わり方を教えてほしい。

託児や預かり保育などの支援が斬新であった。

ボランティアの派遣が延べ783人ということに驚いた。これは学校の理解がないとできないと思うので、どのように学校理解を得ていったのかを知りたい。

- ・ 奈良市の実践について

地域を巻き込んだまちづくりがとても勉強になった。「30万人の市民を先生に」という考え方は素晴らしいと感じた。

太田氏のようなPTA役員からコーディネーター、そして市の職員という配置はなかなかないと思う。地域の方が行政に直接関わることが大きなプラスになっていると感じた。

コーディネーターと教員の懇談会を行うことで、問題解決できたことや伝えていることがあれば知りたい。また、コーディネーターを増やすことができた経緯を知りたい。



＜中山弘之准教授の指導・助言＞



協働を進めていく上で、コーディネーターのような地域住民をいかに育成していくのが大切で、それを担うのは社会教育であると思う。しかし、社会教育も学校教育と同様に職員が整っていなかったり、人事異動があったりする実態がある。そういったことを踏まえた場合、奈良市教育振興基本計画にある「30万人の市民を先生に」という考え方に尽きる。社会教育の先進地である長野県でも同じ悩みを抱えて、そこでは「一人ひとりが社会教育主事になろう」という合い言葉を導き出した。優秀な社会教育主事がいる間に、地域の住民がそれぞれ力量を身に付けようということで、その繰り返しで、地域づくりが発展していくと考えている。地域住民、行政、学校教職員がそれぞれがんばることで、持続可能な実践が可能になる。

平成29年度 地域コーディネーター等研修会④ (受講者51名)

日時 平成29年 8月 4日(金)
午後1時から午後4時まで
場所 愛知県自治センター 602,603会議室

○ 「ここまでの研修のふりかえり」

愛知県教育委員会生涯学習課 家庭教育・地域連携支援グループ担当

第4回の受講者が共通認識をもつために、第3回までの研修の概要を報告した。

○ グループワーク 「“わがまち”の地域学校協働活動」

コーディネーター 愛知教育大学 教授・副学長 大村 恵 氏

＜グループワークの視点＞

- ・ “わがまち”の報告から、関心のある内容でフリートーク

＜グループ発表概要＞

- ・ 地域学校協働活動は将来の地域の担い手を育てる活動であり、支援から転換し、学校と地域、双方の教育力をあげていくことが大切である。
 - ・ 地域学校協働活動を進めるための仕組みを整えて、学校と地域がウィンウィンの関係を築くことが必要。
 - ・ 統括コーディネーター、地域コーディネーターの役割分担を明確にすることが必要。
 - ・ コーディネーターの人材確保の問題、次の世代を育成していく必要がある。
 - ・ 学校が閉鎖的で入り込めないが、学校と地域の信頼関係を構築していくことが大切。
 - ・ ボランティアの方の熱意がありすぎて、学校との温度差が生じることがある。
 - ・ 校長先生に地域学校協働活動の必要性を浸透させていくことが必要である。
 - ・ 活動しやすい環境づくりには、予算面での対応(お金)も必要である。行政が予算取りをしてもらえるように関係者と活動を共有していくことも大切である。
 - ・ 瀬戸市は、協働本部はできていないが、地域、学校、行政が協働できるように、教育サポートセンターを立ち上げ、各課、学校関係者などを含めた研修会を始めている。
 - ・ 蒲郡市は、学校に公民館機能を取り入れることで、地域コミュニティの核を学校に持っていきたい。その中で、学校と地域コーディネーターの関わりを教えてもらった。
- この研修会についても、生涯学習課だけでなく他の行政担当にも認識をしてほしい。

大村：文科省では、「学校事務職は学校の管理運営の専門職」と位置付けていて、地域協働についても学校事務職員が果たすべき役割が大きいのではという論議がされている。

○ 指導・助言 「地域学校協働活動をコーディネートしよう」

講師 愛知教育大学 教授・副学長 大村 恵 氏

- ・ コーディネーターの育成の組織・空間
(コーディネーターの仲間づくり)
- ・ 公民館、市民活動支援施設との連携
地域学校協働本部＝公民館の役割
特定の事業だけでなく、継続性のために総合的な事業体系へ
- ・ 学校改革「次世代の学校」
目指す子ども像：地域で生きていく子ども
- ・ 学校教育と地域作り・まちづくりの基本的矛盾を超えて
①人格形成の基盤を作り直す。 ②人格形成を促進する。 ③学校を変え地域を変える。

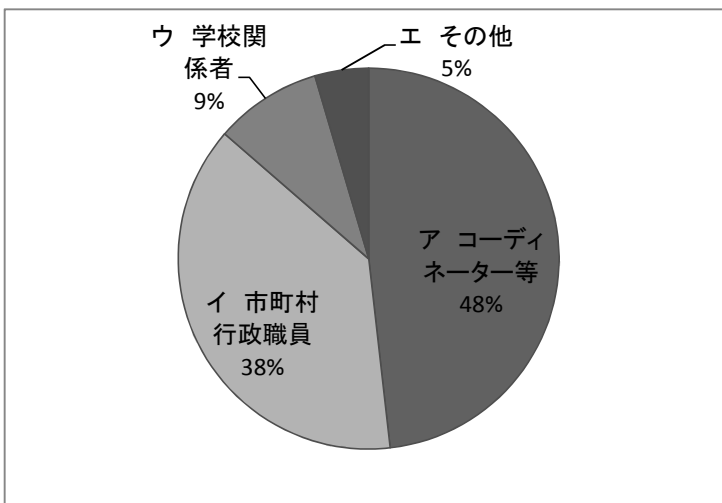


※ 受講者に関するアンケート結果(受講者一人につき1回の回答)

1 受講者の方の現在のお立場

ア コーディネーター等	53
イ 市町村行政職員	42
ウ 学校関係者	10
エ その他	5

エ その他の記述
学習支援事業者(NPO)、協働本部推進アドバイザー、社会教育委員など

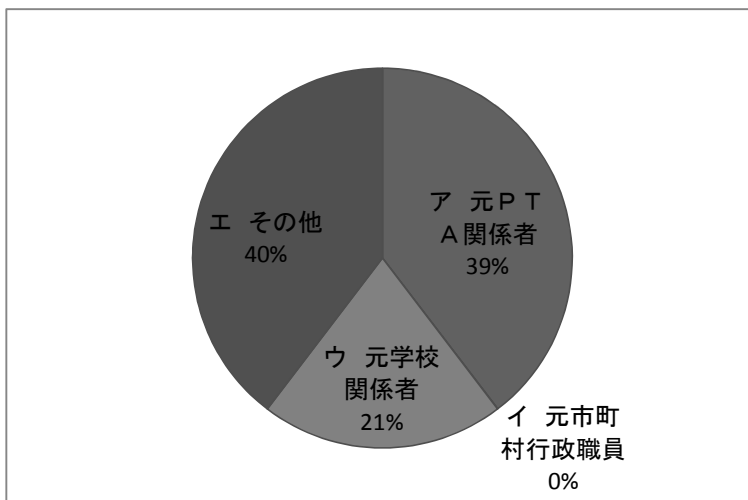


2 コーディネーター等を依頼されたきっかけ

※1でアと回答した方のみ

ア 元PTA関係者	21
イ 元市町村行政職員	0
ウ 元学校関係者	11
エ その他	21

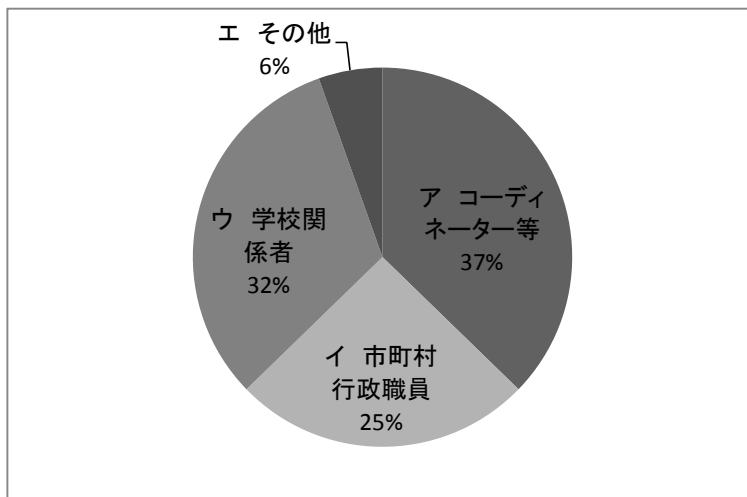
エ その他の記述
元区長、学校内ボランティア、地域子育てサロン、民生児童委員、地域団体役員、現PTA、学校評議員、教育関係NPOなど



3 あなたの市町村ではどのような立場の方がこのような研修会に参加するとよいか

ア コーディネーター等	41
イ 市町村行政職員	28
ウ 学校関係者	35
エ その他	6

エ その他の記述
地域の方(区長や自治会長)、現教職員、関係機関のリーダーなど



第1回アンケート(7/10)

※アンケート回収数 63 人

(1) 講義①「学校と地域の連携・協働の意義」

ア よかった	24
イ だいたいよかった	30
ウ あまりよくなかった	9
エ よくなかった	0

(2) 講義②「愛知県における“地域学校協働活動”について」

ア よかった	20
イ だいたいよかった	40
ウ あまりよくなかった	3
エ よくなかった	0

(3) 情報交換

ア よかった	29
イ だいたいよかった	30
ウ あまりよくなかった	4
エ よくなかった	0

(4) 会全体を振り返って

ア よかった	18
イ だいたいよかった	43
ウ あまりよくなかった	2
エ よくなかった	0

第2回アンケート(7/19)

※アンケート回収数 43 人

(1) 講義「地域学校協働活動における地域コーディネーターの実際」

ア よかった	25
イ だいたいよかった	19
ウ あまりよくなかった	0
エ よくなかった	0

(2) 事例発表「地域学校協働活動(地域未来塾)の取組」

ア よかった	12
イ だいたいよかった	26
ウ あまりよくなかった	4
エ よくなかった	1

(3) グループワーク「地域未来塾における地域コーディネーターの役割を考える」

ア よかった	16
イ だいたいよかった	25
ウ あまりよくなかった	2
エ よくなかった	0

(4) 会全体を振り返って

ア よかった	14
イ だいたいよかった	28
ウ あまりよくなかった	1
エ よくなかった	0

第3回アンケート(7/26)

※アンケート回収数 59 人

(1) 講義「地域コーディネーターの使命・役割について」

ア よかった	22
イ だいたいよかった	28
ウ あまりよくなかった	7
エ よくなかった	2

(2) 事例発表「地域学校協働活動の取組」

ア よかった	42
イ だいたいよかった	17
ウ あまりよくなかった	0
エ よくなかった	0

(3) グループワーク「地域学校協働活動における地域コーディネーターの役割を考える」

ア よかった	31
イ だいたいよかった	27
ウ あまりよくなかった	1
エ よくなかった	0

(4) 会全体を振り返って

ア よかった	33
イ だいたいよかった	25
ウ あまりよくなかった	0
エ よくなかった	1

第4回アンケート(8/4)

※アンケート回収数 47 人

(1) 講義「ここまでの研修のふりかえり」

ア よかった	28
イ だいたいよかった	19
ウ あまりよくなかった	0
エ よくなかった	0

(2) グループワーク「“わがまち”の地域学校協働活動」

ア よかった	36
イ だいたいよかった	11
ウ あまりよくなかった	0
エ よくなかった	0

(3) 指導・助言「地域学校協働活動をコーディネートしよう」

ア よかった	28
イ だいたいよかった	16
ウ あまりよくなかった	2
エ よくなかった	1

(4) 会全体を振り返って

ア よかった	31
イ だいたいよかった	16
ウ あまりよくなかった	0
エ よくなかった	0

<第1回 感想・意見>

- ・ 基本的な考え方と必要性は理解できたが、具体的に活動していくためには、協力体制や現在の学校・教師・行政の意識改革が必要だと思えます。地域コーディネーターがいかにかんばっても組織の理解と協力が不可欠ですので、具体的な活動を聞きたいと思いました。
- ・ 市や学校での活動、地域差の現実を少し垣間見ることができました。
- ・ 問題は、学校が積極的に地域の力を導入しようとする意欲が大切だと思います。
- ・ 「開かれた学校」と何年も前から聞いていますが、まだまだ開かれていないと思います。校長、教頭などの管理職の方はわかってみえるけど、他の教員の方に伝えられているのかと思いました。
- ・ コーディネーターに加えNPOの方など、様々な立場の方の活動が聞けたことが収穫でした。
- ・ もっといろんな立場の方にも参加していただき、コーディネーターをもっと活用できるように考えていけたらいいのではと思います。
- ・ コーディネーターは重要です。しかし、人材探しは自分たちで行わなければならないし、見つかっても何年か経つと力が逆転し地域の方が学校よりも色々な点で上回ってしまうことがあり、厳しいところがたくさんあると思いました。

<第2回 感想・意見>

- ・ 神守中学校地域学校協働本部の現在の活動状況だけでなく、ここに至るまでの道のりがわかり、大変参考になりました。元PTA役員の方が、ここまで学校のために尽力されたこと、地域の方の応援も素晴らしく、その取組に感心させられました。
- ・ 地域未来塾のことが全くわかっていなかったのととても良かったです。運営の実際を聞き、ボランティアを集める大変さを知ることができました。
- ・ コーディネーターの立場から話を聞いていますと、どこまで情報をもって理解していなければいけないのかわからなくなります。行政職員の方々の知識も必要なのでしょうか。もう少し範囲を明確にさせていただけると嬉しいです。
- ・ それぞれの行政・学校の考え方がわかりとても勉強になりました。文科省から同じように通知があっても進め方が違うところがとても良かったです。
- ・ 行政には、地域コーディネーターの役割をもっと明確にし、世間一般の共通認識にするための努力をしてほしいです。そうでないと学校支援員としての位置付けしかされないのではないかと思います。
- ・ 地域未来塾の人材確保の難しさを改めて知ることができました。
- ・ 地域学校協働活動全体で考えながら研修が進められるとよいと思いました。

<第3回 感想・意見>

- ・ 竜王町公民館長を中心とした取組のアイデアの素晴らしさ、奈良市の太田氏の情熱あふれる取組に感動しました。事例がわかり、コーディネーターとしての役割がわかってきました。
- ・ 他県の取組は目からウロコが落ちました。竜王町と奈良市の実践に対して共感を得ました。公民館と学校の連携など、視野を広げることができました。
- ・ 自分が担当をしている放課後子供教室に関して、積極的に先進的な取組をされている奈良市の発表を伺うことができました。
- ・ 公民館主体という発想がなかったので、とても参考になりました。取り入れてみたいです。
- ・ コーディネーターを単に人材派遣センターみたいに考える学校の先生がいるので、何でもかんでもコーディネーターに投げないように、先生方の理解がもっとあるといいと思います。
- ・ 地域で今後のビジョンやスキルアップをしっかりとしないといけないと思います。
- ・ コーディネーターの苦勞と努力を理解できたとともに、今後、事業を進めていくにあたり、教員とコー

ディネーターの情報交換が必要だと感じました。

- ・ 参考になる事例や“やっぱりそうか”と思うこと、自分の地域とは大きく違うと思うことなどありましたが、「子供のために」という考えは同じなのだと思います。
- ・ 実践発表された市町村がうまく活動している所ばかりだったので、もう少し苦労されたことや今、作り上げている市町村の実践発表がほしかったです。
- ・ 良いところを教えていただくことはとても参考になりました。しかし、苦労したところや教頭先生が困っているところの本音を聞かせていただくとさらに参考になります。
- ・ 学校側から支援をお願いしたが時間経過とともに形骸化するという内容が印象に残りました。
- ・ 協働という考え方から学校は地域に対して何をなすうかを考えていきたいと思います。

<第4回 感想・意見>

- ・ 情報共有の場としてとても良かったです。市町村によって様々な取組がありましたが、課題となっている事柄は共通していることがよくわかりました。
- ・ 事前レポートを作成したことで、自分の活動の成果と課題を見つめ直せました。
- ・ 他市町村の実態を交流する中で、自分のすべきことが見えてきた気がします。
- ・ 豊田市浄水校区の事例や瀬戸市の事例等には共感を覚えました。
- ・ 学校が閉鎖的という言葉聞き、これから地域学校協働本部が活動していくときに気を付けないといけないことが浮き彫りになった気がしました。
- ・ 義務教育課と連携し、この研修に教員の参加を勧めてほしいと思いました。
- ・ 色々な地域の方との交流がとても勉強になり、悩みを聞いていただいてとても心強かったです。
- ・ 県下の市町村それぞれの取組の内容、運営方法、困り事などが肌で感じられました。
- ・ 学校へ、この研修会の案内をしっかりとしてほしいと思いました。学校の主たる方はもちろん、一般教員の方へも参加を促してほしいと思いました。ボランティアやコーディネーターの位置付けを理解してもらい、それぞれの学校・地域で何ができるかを考えると思います。

<4日間を通しての感想・意見>

- ・ ボランティアという言葉に予算は必要ないと考えずに、ソフトもハードも両面にお金を使ってもらいたい。
- ・ グループワークはあまりにも市町村によって温度差がありました。参考にはなったものの、自分にとっては事例を聞いたり講義を聴いたりした方が勉強になりました。もっと学ぶ機会があれば意義も変わっていくと思いました。
- ・ 協働活動のゴールは地域の活性化なのでしょうか、次世代を担う子供による地域づくりの基盤なのでしょうか。学習支援にしても環境整備にしても、地域の力を借りることが求められているのでしょうか。どうも、もやもやしています。
- ・ 地域学校協働活動の中で信頼できる大人にたくさん出会った子供たちが、将来、地域の担い手となることを信じて活動を継続させていきたいと思います。
- ・ 十分な経験・知識のない中での参加になり、自分から発言できた場面は多くありませんでしたが、様々な市町村の話を聞くことができ、貴重な経験となりました。この研修で学んだことを着実に今後の業務に結びつけていけたらと思います。
- ・ 4日間連続でありながら、1回が独立していて受講しやすかったと思います。
- ・ 地域未来塾、放課後子供教室等のテーマ別研修会をやっていただきたいと思いました。
- ・ グループワークが有効でした。4日間は長かったが自分のすべきことがつかめてきて、今後に対して意欲を持つことができました。
- ・ ハードな4日間でした。県内の各市町村が、様々に取り組んでいることがよくわかりました。学校を支え、学校を手がかりに地域の健全なあり方を模索していくことはとても大切だと感じました。